

事業評価シート

番号 1640010 _ 001

【1.基本情報】

事業名	中心市街地活性化推進事業				
担当部名	まちづくり推進部	担当課名	まちづくり推進政策課		
総合計画政策	中心市街地を活性化します			政策コード	3 - 1 - 0 - 0
実施方法	委託(出資団体)	補助の種類※		実施主体	(一財)岐阜市にぎわいまち公社
実施期間	18 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	2期岐阜市中心市街地活性化基本計画	

【2.事業概要】

事業の目的	エリアの魅力向上させ、にぎわいを創出するとともにエリアの回遊性を高める。 ①建物所有者の建替えや既存建物の利活用に対する不安を取り除くことで、建替えや利活用を喚起する。 ②団体等が柳ヶ瀬商店街等で開催するイベント等において、事業を円滑に進められるようにする。 ③観光客やウォーキングをする市民などまちなかを訪れる方が、安心してまちなか歩きを楽しんでもらうようにする。				
事業の内容	①中心市街地建替え促進 ・柳ヶ瀬エリアの建物利活用に関する情報収集や相談対応、不動産所有者等向けの利活用を啓発する勉強会の開催 ②柳ヶ瀬プロデュース ・柳ヶ瀬のにぎわい創出に向けた具体的事業の推進を後押しするため、利害関係者間の支援や調整 ③まちなかトイレサイン ・中心市街地で誰でも利用できるトイレの場所を示した地図「おもてなしトイレMAP」の作成及び掲載する民間施設等の協力依頼				
事業の対象	何を	①建物所有者の相談対応及びリノベーション手法による先進事例の勉強会等の啓発 ②団体等が、柳ヶ瀬エリアで事業を円滑に進めるための調整やプロデュース等 ③中心市街地内でトイレを使用可能な店舗・施設を掲載したトイレマップの作成等			
	誰に (対象者・対象者数)	①柳ヶ瀬地区内の不動産所有者や柳ヶ瀬地区内での創業希望者等 ②柳ヶ瀬商店街、商店主、事業者 ③中心市街地への来訪者			
	どのくらい (具体的数値で)	—			
平成29年度 (実施内容)	①中心市街地建替え促進(柳ヶ瀬エリア及び周辺の不動産所有者に対しヒアリングと勉強会を実施) ②柳ヶ瀬プロデュース(商店街等の情報収集や活動団体への支援、支援内容のデータベース作成) ③まちなかトイレサイン(中心市街地内でトイレを使用可能な店舗・施設を掲載した「おもてなしトイレMAP」の更新・増刷)				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成27年度決算額		平成28年度決算額		平成29年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	590	20	608	20	729	23
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	590	20	608	20	729	23

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	9,912	9,908	11,452
直接事業費の主な内訳	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
項目			
業務委託	9,912	9,908	11,452
減価償却費 【施設管理】※ (C)	平成27年度額(千円)	平成28年度額(千円)	平成29年度額(千円)
計(D)=B+C	9,912	9,908	11,452

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	10,502	10,516	12,181

【4.収入】

収入内訳	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	10,502	10,516	12,181

【6.コストバランス】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業受益者	市民全体	市民全体	市民全体
受益者数			
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0%	0%	0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	0円	0円	0円

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	啓発活動の開催		回
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	4	2	2
実績値	4	2	2

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	歩行者・自転車通行量		人
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	44,780	44,780	44,780
実績値	39,804	40,904	37,438

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	本事業は、エリアの魅力を向上させ、にぎわいを創出するとともにエリアの回遊性を高めるものであり、中心市街地活性化に必要な事業である。 本市が行うべき事業のため、民間・国・県での実施は考えにくい。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	コストに対して一定の成果を上げている。 柳ヶ瀬の商店主やさまざまな団体、不動産オーナーなど、多様な人たちと横断的に調整、連携できるのは、当実施主体である公社しかない。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	本事業により、中心市街地のにぎわい創出に一定の効果はあったものの、「歩行者・自転車通行量」は目標値以下であった。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受益者は市民全体であり、適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	中心市街地活性化は引き続き強力に取り組む必要があり、その一助となる本事業は必要である。

事業評価シート

番号 1640010 - 002

【1.基本情報】

事業名	柳ヶ瀬にぎわい創出事業				
担当部名	まちづくり推進部	担当課名	まちづくり推進政策課		
総合計画政策	中心市街地を活性化します		政策コード	3 - 1 - 0 - 0	
実施方法	委託(出資団体)	補助の種類※	実施主体	(一財)岐阜市にぎわいまち公社	
実施期間	22 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	2期岐阜市中心市街地活性化基本計画	

【2.事業概要】

事業の目的	・商店街のまちづくりへの意識向上と魅力あるまちのにぎわいを創出するため、商店街と協働して実施する。				
事業の内容	・柳ヶ瀬ファンづくり(小学生が商店街について学習する社会見学の受け入れ、ファンの開拓) ・まちの魅力PR(柳ヶ瀬のファンを増やしていくため、柳ヶ瀬のまちの魅力を伝えるイベントを開催)				
事業の対象	何を	①柳ヶ瀬や柳ヶ瀬商店街の特徴や魅力を体験・理解するプログラム(柳ヶ瀬商店街探検隊)の実施 ②人々が中心市街地(特に柳ヶ瀬)に来たくなるようなイベント(七夕まつり)の開催			
	誰に (対象者・対象者数)	①市内の小学生及び柳ヶ瀬商店街の店主、市民 ②市内の保育園、幼稚園児及び柳ヶ瀬商店街の店主、市民			
	どのくらい (具体的 数値で)	—			
平成29年度 (実施内容)	①柳ヶ瀬ファンづくり(小学校の社会見学「柳ヶ瀬商店街探検隊」34校、2,370人の児童参加) ②まちの魅力PR(七夕まつり6/28～7/7開催、26園(校)が参加)				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成27年度決算額		平成28年度決算額		平成29年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	295	10	304	10	254	8
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	295	10	304	10	254	8

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
		7,678	7,670	6,098
直接事業費の主な内訳		平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
項目	業務委託	7,678	7,670	6,098
減価償却費【施設管理】※(C)		平成27年度額(千円)	平成28年度額(千円)	平成29年度額(千円)
計(D)=B+C		7,678	7,670	6,098

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	7,973	7,974	6,352

【4.収入】

収入内訳	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	7,973	7,974	6,352

【6.コストバランス】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業受益者	市民全体	市民全体	市民全体
受益者数			
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	—	—	—

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	参加団体(小学校/園)	単位	校/園
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	小学校47・幼稚園131市内全校	小学校47・幼稚園131市内全校	小学校47・幼稚園40市内全校
実績値	32・64	30・64	34・26

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	歩行者・自転車通行量	単位	人
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	44,780	44,780	44,780
実績値	39,804	40,904	37,438

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	本事業は、人々が柳ヶ瀬へ来街し、魅力を体験・理解することで、にぎわいを生むための事業であり、中心市街地活性化に必要な事業である。 今後の事業主体については、地元商店街が主体となって取り組むことが必要である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	柳ヶ瀬の魅力を体験・再認識する事業として効果は高い。 事業の経年数から、民間活用による実施を検討することが考えられる。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	本事業により、中心市街地のにぎわい創出に一定の効果はあったものの、「歩行者・自転車通行量」は目標値以下であった。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受益者は市民全体であり、適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	廃止	市の自主事業としての実施は取り止め、今後は商店街主体の事業として、市が実施に関する支援を行う。 ※H29年度からクリスマス飾りは商店街が実施主体となった。

事業評価シート

番号 1640010 - 003

【1.基本情報】

事業名	岐阜市中心市街地にぎわい創出事業補助金				
担当部名	まちづくり推進部	担当課名	まちづくり推進政策課		
総合計画政策	中心市街地を活性化します		政策コード	3 - 1 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体事業補助金	実施主体	市長が指定した中心市街地整備推進機構、または都市再生推進法人
実施期間	26 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	2期岐阜市中心市街地活性化基本計画	

【2.事業概要】

事業の目的	・中心市街地におけるにぎわいを創出する。				
事業の内容	・市長が指定する中心市街地整備推進機構等が行う、中心市街地のにぎわいを創出するための事業に対し、事業の立ち上げ及び初動期における事業運営の経費の一部を助成する。				
事業の対象	何を	・補助金			
	誰に (対象者・対象者数)	・市長が指定した中心市街地整備推進機構 ・市長が指定した都市再生推進法人			
	どのくらい (具体的 数値で)	・ハード事業(補助対象経費の額の1/2に相当する額) ※国、県、その他公的な団体から交付を受けた補助金等の対象となった経費を除く。 ・ソフト事業(補助対象経費の額から、国、県、その他公的な団体から交付を受けた補助金等の額を減じた額以内)			
平成29年度 (実施内容)	年間2件 ・ロイヤル劇場ビルリノベーション事業(柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社) ・免税店マップ作成事業(一般財団法人岐阜市にぎわいまち公社)				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成27年度決算額		平成28年度決算額		平成29年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	295	10	304	10	317	10
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	295	10	304	10	317	10

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
		4,500	4,500	4,500
直接事業費の主な内訳		平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
項目	補助金	4,500	4,500	4,500
減価償却費【施設管理】※(C)		平成27年度額(千円)	平成28年度額(千円)	平成29年度額(千円)
計(D)=B+C		4,500	4,500	4,500

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	4,795	4,804	4,817

【4.収入】

収入内訳	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	4,795	4,804	4,817

【6.コストバランス】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業受益者	市長が指定した中心市街地整備推進機構、 または都市再生推進法人	市長が指定した中心市街地整備推進機構、 または都市再生推進法人	市長が指定した中心市街地整備推進機構、 または都市再生推進法人
受益者数			
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	—	—	—

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	補助件数	単位	件
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	1	1	2
実績値	1	1	2

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	歩行者・自転車通行量	単位	人
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	44,780	44,780	44,780
実績値	39,804	40,904	37,438

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	本事業は、中心市街地におけるにぎわいを創出するための事業であり、中心市街地活性化に必要な事業である。 市が、にぎわいの創出を目指す団体が行う事業の立ち上げ及び初動期に支援することは必要である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	リノベーションにより整備された区画には、11の新たなコンテンツのうち、10の出店者(創業者等)を生み出した。 市が、事業の立ち上げ及び初動期に支援することは、今後の民間活用を検討するうえで必要である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	本事業により、中心市街地のにぎわい創出に一定の効果はあったものの、「歩行者・自転車通行量」は目標値以下であった。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	ソフト事業については、事業の立ち上げ及び初動期に市が負担するが、ハード事業は、受益者にも均等に負担しており、適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)-廃止)	現状維持	中心市街地活性化を引き続き強力に取り組むうえで、市が、にぎわいの創出を目指す団体が行う事業の立ち上げ及び初動期に支援することは必要である。

事業評価シート

番号 1640010 - 004

【1.基本情報】

事業名	中心市街地情報発信拠点事業 ※旧事業名：商店街情報発信拠点運営事業補助(H20～H29)				
担当部名	まちづくり推進部	担当課名	まちづくり推進政策課		
総合計画政策	中心市街地を活性化します		政策コード	3 - 1 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体事業補助金	実施主体	一般財団法人岐阜市にぎわいまち公社
実施期間	20 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市中心市街地にぎわい創出事業補助金交付要綱	

【2.事業概要】

事業の目的	中心市街地の活性化に向け、来街者に対する利便性の向上やまちの魅力を高めることを目的に、「柳ヶ瀬あい愛ステーション」を運営するものである。ふれあいサロンなどの交流拠点機能、ラジオ放送やまちの情報チラシの配布などの情報発信機能、授乳スペースやキッズルームなどの公益的機能の3つの機能を有し、まちなかを回遊する拠点の役割を担う。	
事業の内容	交流拠点機能(来街者の休憩スペース等を設置)、情報発信機能(商店街の情報提供等)、公益的機能(授乳スペース・キッズルームを設置、まちのコンサルジュとしての役割)の事業に対して支援する。	
事業の対象	何を	柳ヶ瀬あい愛ステーションの運営に対する補助金
	誰に (対象者・対象者数)	一般財団法人岐阜市にぎわいまち公社
	どのくらい (具体的 数値で)	補助対象経費から国等の補助金を除いた額以内
平成29年度 (実施内容)	ラジオ等による商店街等のイベントなどの情報提供及び施設の管理運営に対して支援した。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成27年度決算額		平成28年度決算額		平成29年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	649	22	669	22	697	22
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	649	22	669	22	697	22

(2)物にかかるコスト

	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
直接経費 【直接事業費】 (B)	12,000	12,000	12,000
直接事業費の主な内訳	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
項目	補助金	12,000	12,000
減価償却費 【施設管理】※ (C)	平成27年度額(千円)	平成28年度額(千円)	平成29年度額(千円)
計(D)=B+C	12,000	12,000	12,000

(3)総コスト

	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
総事業費(E) =A+D	12,649	12,669	12,697

【4.収入】

収入内訳	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	12,649	12,669	12,697

【6.コストバランス】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業受益者	入館者数	入館者数	入館者数
受益者数	77,951	69,074	62,907
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	162	183	202

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	補助金額	単位	千円
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	12,000	12,000	12,000
実績値	12,500	12,000	12,000

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	入館者数	単位	人
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	75,000	80,000	77,000
実績値	77,951	69,074	62,907

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民が求める交流拠点機能、情報発信機能、公益的機能を有する施設として、商店街や地域住民の活動の場と商店主などと連携する事業を展開する拠点として必要な事業である。 公共性のある施設であり、行政の支援は必要である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	来街者に対する利便性の向上及びまちの魅力の向上につながる施設になっている。 民間による活用を視野に入れ、収益性の上がる施設運営は必要と考える。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	交流拠点機能、情報発信機能、公益的機能をもった有効な拠点施設として機能しているが、平成27年度をピークに利用者は減ってきている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	来街者すべてが利用できる施設であるが、受益者負担として利用料の徴収について検討が必要である。 特に会議の利用などが多い商店街団体に対しては相応の受益者負担が必要と考える。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	商業振興に特化せず、中心市街地の活性化の観点から柳ヶ瀬の公共的スペース、各種まちづくり団体等のイベント等の活動の場として必要不可欠な施設である。 新たな取り組みとして、施設内に実施主体である岐阜市にぎわいまち公社職員が常駐し、イベント企画団体へのアドバイスや遊休不動産の利活用を目指す権利者等との相談業務に対応するための窓口を設置し、従前の機能と合わせて中心市街地活性化のための情報発信拠点として役割を担っていく。

事業評価シート

番号 1640010 - 005

【1.基本情報】

事業名	寺院群都市会議(寺町サミット)				
担当部名	まちづくり推進部	担当課名	まちづくり推進政策課		
総合計画政策	岐阜市の魅力を発信します			政策コード	3 - 7 - 0 - 0
実施方法	直営	補助の種類※		実施主体	岐阜市
実施期間	平成6年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	寺院を活かしたまちづくりの方策に関し、相互に意見を交換、研究し、魅力的で個性豊かなまちづくりに資することを目的として、全国6都市の長をもって「寺院群都市会議」を構成し、毎年、構成都市において「寺町サミット」を開催(H6～) また、H21からは、岐阜市寺院を活かしたまちづくり団体協議会を設立し、毎年協議会を開催				
事業の内容	寺町サミットの開催…寺院を活かしたまちづくりをテーマに、以下の内容を実施 ・学識経験者などによる基調講演 ・各都市の市民団体による事例発表 ・各市長によるパネルディスカッション 岐阜市寺院を活かしたまちづくり団体協議会の運営 ・協議会の開催 ・パネル展示、岐阜市HPによるまちづくり団体の活動PR等				
事業の対象	何を	寺院を活かしたまちづくり			
	誰に (対象者・対象者数)	7都市の市長及び寺院を活かしたまちづくり活動を実施している団体			
	どのくらい (具体的 数値で)	年に1回、構成7都市の持ち回りで寺町サミットを開催(約200人参加) 年に数回、岐阜市寺院を活かしたまちづくり団体協議会やパネル展示等を実施			
平成29年度 (実施内容)	平成29年11月2日(木)～3日(金・祝)に寺町サミットin岐阜を開催(パネル展示もあわせて実施) (H30は高岡市で開催) ・参加人数 サミット 222名、交流会 177名、翌日の視察 149名 ・開催にあたり、実行委員会を組織し、会議を3回開催 平成29年6月30日に寺院を活かしたまちづくり団体協議会を開催				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成27年度決算額		平成28年度決算額		平成29年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	1,357	46	1,398	46	4,597	145
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		731	159
計(A)	1,357	46	1,398	46	5,328	304

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
		326	363	1,550
直接事業費の主な内訳		平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
項目	負担金	65	80	1,547
	賃借料	196	187	0
	旅費	61	91	0
減価償却費【施設管理】※(C)		平成27年度額(千円)	平成28年度額(千円)	平成29年度額(千円)
計(D)=B+C		326	363	1,550

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	1,683	1,761	6,878

【4.収入】

収入内訳	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	1,683	1,761	6,878

【6.コストバランス】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業受益者	まちづくり団体	まちづくり団体	まちづくり団体
受益者数	1,370	1,370	1,370
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	1,228	1,286	5,020

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	寺町サミットへの参加団体数	単位	団体
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	3	3	8
実績値	4	4	8

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	寺町サミットin岐阜の参加人数	単位	人
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	—	—	200
実績値	—	—	222

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	中	寺院を活かしたまちづくり活動団体にとって、寺町サミットへの参加が活動の参考になっている。 サミットは各市長による意見交換を中心に構成されており、市以外が担うことは困難である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	人件費を除き、最小の費用で実施している。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	寺町サミットへの参加により得られる他都市の情報は、文献や観光旅行などでは得ることのできないものであり、参加するまちづくり団体にとっては、活動を継続する上での勘所となる貴重な情報となっている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	広く寺院を活かしたまちづくり団体を募ったうえで、最小の費用で実施している事業であり、公平性に問題はない。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)-廃止)	現状維持	平成6年のサミット加入後、24年を経過する中で、平成21年からは岐阜市寺院を活かしたまちづくり団体協議会を設立し、市民団体の方々とともに参加している。 この形態になって、今年で10年目を迎えることや、サミットでの事例発表団体が一巡することなどから、改めて、寺院を活かして、どのようなまちづくりを行っていくのかについて、協議会の会員とともに議論する場を設けて検討するとともに、サミットについてもより効果的なものとなるよう、見直しを検討していく。